

IRB番号「2011—1035」

研究課題名「保存同種組織を用いた運動器機能再建術の確立」

1. 研究の対象

2011年9月～当院で骨軟部腫瘍手術に伴う骨欠損の再建手術を受けられた方

2. 研究の目的・方法

意義：骨・靭帯などの組織を移植して外傷や腫瘍切除後の組織欠損を補填し機能的再建を行うことは整形外科では古くから行われてきた。日本では元来自家組織移植が行われてきたが採取による局所侵襲や運動機能障害のためその量、部位、形状には制限があり欠損に見合った必要十分な機能再建は時に制限されている現状があった。一方で欧米や日本を除くアジア諸国では同種組織を用いた再建が主流となっているためこのような制限なく十分な再建を行える体制が整備されている。近年日本でも同種骨・靭帯移植は保険収載され、日本整形外科学会の定める「整形外科移植に関するガイドライン」「冷凍ボーンバンクマニュアル」に沿って安全に行われるべく同種組織移植の体制はすでに整備され外傷や人工関節再置換術などで適用が増加してきている。

目的：本研究の目的は世界的にはスタンダードとなっている同種骨移植を本邦の骨軟部腫瘍の再建術でも実践し、必要十分な同種組織を得ることによりこれまで成しえなかった機能再建術を制限なく行うことである。

方法：がん研有明病院で骨・軟部腫瘍切除後または人工関節再置換手術などによる組織欠損に対し、日本整形外科学会が定めるガイドライン、マニュアルに基づいて保存された同種組織を用いた再建を行う。

3. 研究期間

承認日 ～ 2021年09月07日

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究に用いる下記の試料・情報につきましては、倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、個人が特定されないように適切に匿名化処理を行った上で取り扱っています。

情報：年齢、性別、病歴、治療歴、レントゲン画像、等

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

実施責任者：
公益財団法人がん研究会有明病院
〒135-8550東京都江東区有明三丁目8番31号
整形外科 部長 阿江 啓介